



夫を許さう栗飯が炊けたから
来青てふ言葉さやかに賜りぬ
津軽金秋一打目の三味の撥
木枯の三階に出る銀座線
太棹の変調や急秋深し
釣瓶落しタワーを夜が駆け上る
人の温み羽織りて津軽星月夜
帰燕後にして海峡の続の波
雪催ひ海へ信濃の百峠
運ばるる逢瀬の二体菊人形
みちのくの血潮跳ねたる佞武多かな
浮寝鳥見てゐる人を見てをりぬ
神の留守用なき第五日曜日
林檎むく愛情といふ螺旋形
千人の耳十月のピアニッシモ

千田 百里
辻 美奈子
甲州 千草
高木 嘉久
栗原 公子
峰崎 成規
平松うさぎ
大畑 善昭
藤森すみれ
広渡 敬雄
頓所 友枝
荒井千佐代
福島 茂
兵藤 恵
村上 葉子

はじまりは焦燥の色カンナ枯る
鶴の来て翼の重さ解きにけり
襷深く黙考中の鶏頭花
冬の鷺抜き足のまま哲学す
銀杏散り終へば蒼茫たるみ空
はつゆきの独立峰に濁りなし
空に立つ波もあるらむ鰯雲
空は動かぬコスモスが狂ふから
白神の森の光源枯葉舞ふ
茶の花や身ぬちの敷居低うせよ
「ラッセラー」跳人は熱を爆ぜながら
とめどなき雨は刈田へ関ヶ原
嘶家の落ち聞きもらす小春かな
登仙の心地こそすれ猿酒
空一枚使ひきつたる渡り鳥

関根 瑤華
中村 重幸
七田 文子
金光 浩彰
枇杷木 愛
浜田はるみ
栗坪 和子
鈴木 光影
木村あさ子
澤田 英紀
須賀ゆかり
青木 幹晴
西井薫美子
坂井 博
中谷 恭子

